

## 選考委員会における委員のコメント

### 取手市立藤代南中学校

#### 著作権のルールとマナーを考える～総合的な学習の時間「取手市の未来を考える」 における情報収集や発信を通して～

- 自分たちの身の回りのことをテーマとすることは良い。画家や彫刻家から直接話しを聞く体験を取り入れることで、著作者の思いを理解することができる。また、知識にとどまらず、自らが情報発信する立場となることで、著作者の思いを実感させることにつながると思う。
- 中学1年生を対象とした「総合的な学習の時間」全体を通してのプロジェクトである。総合テーマをはっきり決めて、そのなかで著作権の「ルール」「マナー」を学ぶやり方もよい。年間の活動計画も示され、段階的に6月と11月に実践を行っている。報告書のなかで、生徒の活動（動き）がもう少し具体的に見える説明がほしかった。今後の課題にある2学年、3学年へと系統的な指導をぜひ続けていただきたい。実践を踏まえた「手引き」への内容をぜひ現場からも発信していただきたい。
- 芸術のまちという地域の特性を生かし、未来を考える過程で知的財産権の大切さを理解し、著作権を尊重する態度を身に着けた実践である。総合的な学習の一連の学習過程の中で、著作権に関する学習を、情報収集場面と、情報発信場面の2回にわたって埋め込んでいることが効果的である。情報発信の際に必要な出典を明記するには、情報収集の段階から留意しておく必要があり、撮影による複製には許可が必要なことなど、情報発信を目的とした取材活動における情報モラルを適切に学習することができた。
- 著作権の指導のみに偏らず、市の職員からのインタビューなどを活用した指導を展開しながら、横断的な系統性を踏まえた著作権指導を展開している。年間指導計画にしっかりと位置づけた活動を行っている（担当者任せになっていない）点も優れている。
- 地域の特色を題材に、作家から作品に対する思いを直接聞いたり、調べたことをまとめる活動を通して制作者としての立場を経験したりして、自然に引用や許諾などの著作権問題を学ぶ授業計画になっている点が評価できる。授業者も課題としているが、学校全体で著作権教育に取り組む動きに広がってほしい。
- 中学1年生の生徒への著作権に対する「気づき」の指導として、よく考えられている。
- 地域に根付いた情報を使い「収集と発信」をすることで、地元の素材と著作権教育をうまく活用できている。デジタルカメラの留意点から著作権を学習することは、身近な問題だけにより理解が深まると思われる。カルタ取りの作成を通じて、著作物を生徒自ら作成することで、より制作者の気持ちを理解することができたのではないかと感じる。生徒の感想や声をもう少し聞きたい気がした。「今後の課題」に記載のあるとおり、次年度へのつながりや総合的な時間のみならず、国語科などの授業でも指導することを期待する。

- 取手市の芸術文化の活動を情報収集、発信させることを通じて、著作権について考える機会と著作物の制作者の思いや願いを知ることを学習した点を評価する。
- 総合的な学習の時間における問題解決学習において、要所要所で著作権についてしっかり指導を行い、子どもたちも体験学習の中できちんと意識して行動ができている点が評価できる。このような学習を中学校1年生段階で行うことで、今後の学習、生活に生きていくと思われる。

以上